

授業科目	最先端医薬品学特論 Pharmacology of Recently Marketed Drugs			担当教員	山口 拓、岸原 健二、西奥 剛、藤木 司 縄田 陽子、福森 良		
展開方法	講義	単位数	2単位	開講年次・時期	1-3年／前期	必修・選択	選択
授業のねらい							
1) 新医薬品について理解し説明・議論できる。 2) 新医薬品の作用機序について説明、理解・議論できる。 3) 新医薬品と既存の医薬品との関連性や相違について説明、理解・議論できる。 4) 新医薬品の開発経緯について説明、理解・議論できる。 5) 新医薬品開発の現状を説明し、その新医薬品を用いた適正な薬物療法を提案できる。 6) 抗体医薬品を列挙し、代表的な抗体医薬品の作用や特徴を説明できる。							
観点	学生の授業における到達目標			評価手段・方法	評価比率		
関心・意欲 ・態度	(1) 新医薬品に関心を持ち、臨床薬剤師として最先端の薬物療法へ関わり方を身につける。			授業態度・授業への取組	10%		
思考・判断	(1) 新医薬品を用いて疾患の病態に合わせた合理的で適正な薬物療法を推測・判断できる。			レポート 課題発表・総合討論	20%		
技能・表現	(1) 新医薬品について、その医薬品情報や関連論文等の資料に基づいて、自らの意見を表現できる。			レポート 課題発表・総合討論	40%		
知識・理解	(1) 新医薬品の開発経緯と作用機序および副作用を概説することができる。(2) 新医薬品と既存の医薬品との比較、新医薬品の臨床適応について概説できる。(3) 新医薬品の今後の新しい展望について概説できる。			レポート 課題発表・総合討論	30%		
出 席						受験要件	
合 計						100%	
評価基準および評価手段・方法の補足説明							
レポートと課題発表：90%(思考・判断：20%、技能・表現：40%、知識・理解：30%)及び授業態度・授業への取り組み：10%で総合的に評価する。							
授業の概要							
毎年、様々な薬剤が新しく市場に導入されているが、全く新しい作用機序を持った医薬品から配合剤、新しい効能・効果が追加された医薬品まで多種多様である。これらの新薬（正式には“新医薬品”）について、その薬理作用機序から副作用情報、臨床薬理学的情報、その臨床適応に至るまでを十分に理解し、適正な薬物療法に応用させることは臨床薬剤師にとって喫緊の課題である。また、既存の医薬品と新医薬品を比較することによって、新医薬品の特徴について理解を深めることも重要である。本特論では、国内にて上市されている新医薬品開発の現状や新医薬品の薬学的関連情報を理解することによって、新医薬品を用いたより適正な薬物療法の実践に向けての医薬品情報を学び、臨床薬剤師研究者として、最先端の医薬品情報を駆使して最先端の薬物療法に積極的参画できる能力を養うことを目的とする。							
教科書・参考書							
教科書：なし 参考書：今日の治療薬 2020（南江堂）、治療薬マニュアル 2020（医学書院） 薬剤師トレーニングマガジン「Rp.+ レシピプラス」（南山堂）							
授業外における学修及び学生に期待すること							
本特論にて対象としている疾患について、その病態生理および既存の薬物療法について予習しておくことを強く推奨する。また、授業に関係する日本語並びに英語の文献を読む習慣をつけること。							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	最先端医薬品学総論	疾病の治療における新医薬品の開発の意義と問題点について学ぶ。(山口拓)	予習：特になし 復習：当該講義内容の復習
2 3	精神疾患治療薬の新医薬品 (1)～(2)	精神疾患治療薬の新医薬品について、(1)開発経緯と作用機序および副作用、(2)既存の医薬品との比較、臨床適応について学ぶ。(山口拓)	予習：精神疾患についての病態生理および既存の薬物療法について予め確認しておくこと。 復習：当該講義内容の復習
4 5	骨代謝疾患治療薬の新医薬品(1)～(2)	骨代謝疾患治療薬の新医薬品について、(1)開発経緯と作用機序および副作用、(2)既存の医薬品との比較、臨床適応について学ぶ。(西奥)	予習：骨代謝疾患についての病態生理および既存の薬物療法について予め確認しておくこと。 復習：当該講義内容の復習
6 7	神経疾患治療薬の新医薬品 (1)～(2)	神経疾患治療薬の新医薬品について、(1)開発経緯と作用機序および副作用、(2)既存の医薬品との比較、臨床適応について学ぶ。(縄田)	予習：神経疾患についての病態生理および既存の薬物療法について予め確認しておくこと。 復習：当該講義内容の復習
8	抗腫瘍免疫療法	抗腫瘍免疫療法および免疫賦活法の歴史と基本原理について学ぶ。(岸原)	予習：がん治療薬に関する基本的な知識を予め確認しておくこと。 復習：当該講義内容の復習
9 10	悪性腫瘍治療薬の新医薬品 (1)～(2)	(1)抗腫瘍免疫療法(樹状細胞療法、ペプチドワクチン療法、分子標的薬)の原理と臨床応用についてまとめ、レポートを作成する。(岸原) (2)抗腫瘍免疫療法に関するレポートをもとに、化学療法との比較で抗腫瘍免疫療法の利点・欠点を討議する。(岸原)	予習：抗腫瘍化学療法と抗腫瘍免疫療法の種類と特徴について予め確認しておくこと。 復習：当該講義内容の復習 予習：レポートを完成し、抗腫瘍化学療法と抗腫瘍免疫療法を予め比較検討しておくこと。 復習：当該講義内容の復習
11 12	アレルギー疾患治療薬の新医薬品(1)～(2)	(1)アレルギーに対する新医薬品および免疫療法を学ぶ。アレルギーに対する新医薬品や免疫療法(とくに減感作療法)についてまとめ、レポートを作成する。(藤木) (2)減感作療法及び新医薬品に関するレポートをもとに、既存の薬物療法との利点・欠点を討議する。(藤木)	予習：アレルギー疾患についての病態生理および既存の薬物療法について予め確認しておくこと。 復習：当該講義内容の復習 予習：レポートを完成し、既存の薬物療法と免疫療法を予め比較検討しておくこと。 復習：当該講義内容の復習
13 14	代謝性疾患治療薬の新医薬品(1)～(2)	代謝性疾患治療薬の新医薬品について、(1)開発経緯と作用機序および副作用、(2)既存の医薬品との比較、臨床適応について学ぶ。(福森)	予習：代謝性疾患についての病態生理および既存の薬物療法について予め確認しておくこと。 復習：当該講義内容の復習
15	総合討論	新医薬品を理解し、今後の新しい展望を討議する。(山口拓)	予習：プレゼンテーションの準備 復習：当該授業内容の復習